



江戸川区立松江第六中学校



学校だより

令和7年11月4日 第7号

江戸川区立松江第六中学校

校長 小野満 賢

身近にいる大人として

校長 小野満 賢

気が向いた時に廊下や階段を掃除していると、通りすぎる生徒から「校長先生！ありがとうございますす！」と声をかけられます。つい先日は吹奏楽部が上の階に楽器を運んでいるところにたまたま居合わせて、一人で楽器を運ぼうとしていた生徒を手伝ったら、その生徒だけではなく、周りの生徒たちが笑顔で口々に「ありがとうございます」と声をかけてくれました。

松江六中にはそういう生徒が何人もいて、なんて良い子たちなんだろうと改めて思います。私が中学生時代に校長先生に「ありがとうございます」なんて言ったことは、ただの一度もありません。そしてまた、「ありがとう」と言われるのは幾つになっても嬉しいものです。もちろんお礼を言ってもらえることを期待しているわけではありませんから、不意にかけられる生徒の言葉が余計に嬉しく感じます。この生徒たちのためにまた頑張らなくちゃ、という思いも湧いてきます。



どうして松江六中の生徒の多くが「ありがとう」という感謝の言葉をごく自然に言うことができるのでしょうか。私はその理由が二つあると思っています。

まず一つは、身近にいる大人（保護者や地域の方々）が、子どもたちに「ありがとう」をきちんと伝えているからだと思います。「私たちのもとに生まれてきてくれてありがとう」「元気でいてくれてありがとう」「一生懸命頑張ってくれてありがとう」「手伝ってくれてありがとう」「相談してくれてありがとう」等々、もちろん子育てには色々なことがありますが、まずはお子さんに対してできるだけ「ありがとう」の声を、きっと笑顔で掛け続けてきたのでしょう。そのおかげで、言う方も言われる方も嬉しいという「心地よさ」が沁みついているのではないのでしょうか。

そしてもう一つは、誰かに何かをしてもらった時に、「ありがとう」と言う大人の姿を、幼い頃からお子さんに見せているからだと思います。施しを受けたら礼を言うのは大人の世界では当たり前のことなのだ子どもたちが認識しているのだと思います。私などは、娘が小さい時に、誰かからお菓子をもらったら、「ほら、ありがとうと言いなさい」と言っていたような気がします。しかし、ここはまずは私が率先して「ありがとうございます」と相手に言うべきだったと今になっては思うのです。

立正大学社会福祉部元教授の石橋昌雄氏が著書の中で、「子どもは大人が言ったことではなく、していることを真似する」と述べていましたが、全くその通りだと思います。加えて言うなら、真似して欲しくないと思うことほど、子どもは真似するものです。

娘が幼い頃、こんなことがありました。夜、眠くなった娘を寝かしつけるために布団に入りました。ほどなく娘は寝息を立て始めました。部屋の蛍光灯を消そうと思ったのですが、起き上がるのが面倒だった

私は、寝たまま脚を伸ばし、足の指で蛍光灯の紐をカチカチッと引きました。ふと横を見ると、さっきまで寝ていたはずの娘の目がパチッと開いています。あろうことか父親のものぐさな行動の一部始終を娘はじっと見ていたのです。

それからというもの、蛍光灯を消す段になると、娘はわざわざその下で横になり、短い脚を紐に向けて伸ばす毎日です。「電気の紐は手で引っ張るんだよ」と言っても、もはや後の祭りです。どれだけ正しいことを言っても、そうではない行動をしていた父親の言葉は娘には届きません。あの様子だと、友だちの家に行っても、保育園でもやっていたと思います。変に思った友だちの親御さんや、保育園の先生に理由を尋ねられたら、娘は間違いなく「パパがやっていた」と言うに違いありません。そんなことを思うと、恥ずかしくて仕方がありませんでした。

娘のトライはしばらく続いたものの、手で紐を引っ張る方が圧倒的に早いことを知り、やがて終息していきました。でも私自身が「自分の行動を、(特に子どもの前では)ちゃんとしなくちゃ」と思わされたできごとでした。(しかし、その後も私は娘たちに数々の醜態を見せてしまっていますが。)



さて、生徒が学校にいる時間は、一番身近にいる大人は学校の先生ということになりますから、これは責任重大です。

松江六中では、毎年、年度始めの4月に、「生徒の身近にいる『いい大人』の見本として実践すること」として、全教職員に確認していることがあります(右枠参照)。決して難しいことではなく、意識さえしていれば皆ができることではないかなと私は思っています。

どうでしょう、松江六中の先生方は生徒の皆さんの前で、ちゃんと実践しているのでしょうか。

いやその前に、校長の私はどうでしょうか。まずは私がいつも当たり前に行っていないければ、何の説得力もありませんからね。

「生徒の身近にいる『いい大人』の見本として実践すること」

- ・笑顔で率先して挨拶をすること
- ・呼ばれたら気持ちのよい返事をする
- ・感謝の気持ちを言葉で相手に伝えること
- ・相手の良い点を見つけ上手に褒めること
- ・失敗をしたら素直に謝ること
- ・丁寧な言葉遣いを心がけること
- ・話しかけられたら、作業を止め、話し手の方に体と視線を向けること
- ・話を最後まで聞くこと
- ・TPOに応じた身だしなみ、言動をすること

学年弁論大会【1・3年 9/29(月)、2年 9/30(火)】

上記の日程で、各学年に分かれ弁論大会が行われました。選ばれた発表だけあって、どの発表も説得力がありました。テーマも多彩で、特に3年生では「成功のための努力の大切さ」「不安と自信」など、主に自分自身と向き合ったもの。「当たり前と思っていた人との関係も当たり前でないこと」や「人は単純に切り分けできないところに面白さがある」など、人との関係性に注目したもの。また、昨年来話題となることの多くなった生成AIに代表される、「最新技術と人間の在り方」に注目したものなど、幅広い発表を聴くことができました。

弁論大会の様子を見ながら、生徒のみなさんの様々な力を育ててくれるとても良い会になっていると感じました。弁論発表をすることで、知識や体験を通じて自分の考えをまとめる力、どのように表現すれ



ば相手に伝わるか検討し表現する力を鍛えることができます。そして、弁論を聴くことで、発表者の知識や経験・考えを受け取る力、自分と他者の比較を通して考える力、他者の良いところを認め自分を伸ばそうとする姿勢などを育ててくれていました。

今回の弁論大会は、発表者の努力や聞き手の誠実さが感じられる良い発表で、今後の生徒達の成長が楽しみになりました。発表者、聞き手、弁論大会を支えてくれた係のみなさん、そして先生方。今回弁論大会に関わったすべての方々に感謝しています。ありがとうございました。

3年生

最優秀賞 1組

- 優秀賞 1組
- 優秀賞 2組
- 優秀賞 2組
- 優秀賞 3組
- 優秀賞 3組



2年生

最優秀賞 3組

- 優秀賞 1組
- 優秀賞 1組
- 優秀賞 2組
- 優秀賞 2組
- 優秀賞 3組



1年生

最優秀賞 1組

- 優秀賞 1組
- 優秀賞 2組
- 優秀賞 2組
- 優秀賞 3組
- 優秀賞 3組



(文責 副校長 堀米 哲) (敬称略)

芸能祭音楽会 10/2 (木) 江戸川区総合文化センター

この週は顧問の浅沼先生が体調不良でお休みだったため、副顧問の池尻先生のサポートを受けながら、4人の3年生が中心となって後輩を引っ張り、音楽祭への準備を進めてきました。

今回は、吹奏楽コンクールで演奏した「ブリュ・ジ・メタン」と Mrs. GREEN APPLE の大森元貴さん作曲の「breakfast」の2曲を披露しました。36人が舞台に立ちましたが、その大編成はかなり目を引きました。当日は、外部指導員の荒木先生が急遽駆け付け、指揮をしてくださいました。2曲のうち1曲はほぼ初見の楽譜とおっしゃっていましたが、そんなことを感じさせない見事な指揮でした。部長の さんの曲紹介の後披露された「ブリュ・ジ・メタン」は朝焼けの情景を神秘的に表現した作品です。ピアノの優しい旋律とティンパニーの激しい音が管楽器の音に重なり、何度聞いても心が揺さぶられます。生徒たちもお気に入りの曲らしく、丁寧にしっかりと演奏していました。パーカッションの格好良さは相変わらずでした。「breakfast」は さんと さんの掛け合いの後、披露されました。

が、会場の手拍子に合わせて元気よく軽快に演奏することができました。顧問不在の中でしたが、やり切ったという満足感を感じているようでした。

ちなみに朝はバスの混雑を避けるために、パーカッション担当以外の部員が、校長と一緒に文化センターまで歩いていきました。大した距離ではありませんが、かなりの速足で歩いたため、朝から大汗をかきました。帰りは全員でバスに乗って学校に帰ってきましたが、身動きが取れないほどぎゅうぎゅう詰めでした。やはり松六吹奏楽部はかなりの大所帯です。来年度は文化センターの改修工事が入っているため、残念ながら開催しないことが決まっています。往復の道々で色々な話をし、吹奏楽部の皆さんと、なかなかできない良い経験をさせてもらいました。



いざ、文化センターへ！



命と心について考える週間 10/6(月)～10(金)

「命と心について考える週間」として、10月6日(月)～10月9日(木)命の大切さや他者を思いやる心について考える授業を行いました。



お礼の言葉

君

始めに交通事故の被害者遺族、深迫祥子さんを講師にお招きし、「命の大切さを学ぶ教室」を実施しました。【10月6日(月)】

講演では、突然奪われた命の尊さや、残されたご家族の深い思いについてお話しいただきました。生徒のアンケートからは、「二次被害」と呼ばれる、遺族への無配慮な言葉がもたらす辛さに気づき、自分自身の考え方や発言を見つめ直そうとする様子が見られました。

また、被害者支援活動のお話もありました。深迫さんの活動は、バリスタだった息子さんの想いを継ぎ、コーヒーイベントから始まったそうです。その活動が明るく温かい雰囲気の中で行われていることに驚くとともに、多くの人に被害の実情を知ってもらいたいという深迫さんの思いに触れる中で、被害者支援の意義についても深く考える貴重な時間となりました。

「SOSの出し方教室」【10月8日（水）】では、江戸川区いのちの支援係の渡辺美沙さんから、自分自身や他者の命を守るための方法についてお話を伺いました。

生徒たちは、身近に多くの悩みを抱える人がいること、また、相談したくてもできない人がいることに気づかされました。中には、相談先や支援窓口の存在を知っていても、実際に利用することにはためらいを感じている生徒もいました。だからこそ、身近な友人の存在が大きな支えになることや、困っている仲間の手を差し伸べることの大切さを改めて実感する機会となりました。



お礼の言葉

君



最後に行った、「セーフティ教室」【10月9日（木）】では、講師の多里庸弘さんから、現代社会に広がるインターネットの利便性と、その一方に潜む危険について学びました。

特に、自分の軽い気持ちからの言動や行動が、思わぬ大きなトラブルへと発展することがあるという具体的な事例を通して、インターネット上では多くの人から非難を受けるリスクがあることを、生徒たちは実感したようです。

さらに、「フィルターバブル」や「エコーチェンバー」といった、インターネット上で自分にとって都合の良い情報や関係性ばかりが集まりやすい現象についても学びました。これらの影響によって視野が狭まり、閉鎖的な考え方に陥る危険性があることを理解する、非常に有意義な学びの機会となりました。



お礼の言葉

さん

この「命と心について考える週間」を通して、生徒たちは「命の尊さ」や「他者への思いやり」、そして「自分自身を守る知識と行動の大切さ」について深く考える機会を得ることができました。

今後も、学びを生かし、一人ひとりが互いに支え合い、安心して過ごせる社会の一員として成長していくことを期待しています。

（文責：生活指導主任 後藤 弘毅）

六中まつり 10/11（土）

秋の爽やかさが感じられるようになった季節の中、今年も六中まつりを開催することができました。あいにくの天気でしたが、それを感じさせないほど多くの小学生や六中生が来場し、校舎内は笑顔と歓声であふれていました。

ハンドボール部・女子ソフトテニス部のストラックアウトは実施できませんでしたが、会場では、生徒会本部によるドリンクの販売や謎解きの実施、科学部のスライム作り体験、吹奏楽部の演奏などがありました。ドリンク販売では、生徒会役員が過去のドリンクの売れ行きや小・中学生に人気であろう商品を予想し、種類と発注本数を考えました。当日は来場して下さった方々が注文をしやすいようにドリンクのリストを準備するなど工夫をしました。ハンドボール部はアトラクションを実施することができませんでしたが、その代わりに、PTAが実施しているダーツと輪投げのアトラクションの呼び込みを行いました。3階で実施していたアトラクションでしたが、一人でも多くの人に足を運んでもらえるよう他フロアにも足を運び、呼び込みを行いました。



松江第六中学校にはこのように、自分達にできることを探し、誰かのために行動できる生徒が沢山います。他にも前日に各場所で使用する机を運んでくれた陸上部の皆さん、部活としてではなく、帰り際に片付けを手伝ってくれた生徒の皆さん。ありがとうございます。そして何より、六中まつりを開催するにあたり沢山の時間をかけ準備をして下さったPTAや地域の方々本当にありがとうございました。

来年も地域を活気づける楽しい六中まつりを開催できるように、PTAと力を合わせながら尽力していきます。

(文責：六中まつり学校担当 藤田 美緒)

後期専門委員会任命式 10/14 (火)

この日、体育館において、後期の専門委員と先日の選挙で選出された生徒会本部役員の任命式が行われました。これを機に学校の中心がいよいよ1・2年生に移ります。経験のある人ももちろんいますが、中には初めて生徒会役員や委員会に挑戦する生徒もいます。分からないことも多く、うまくいかないこともあると思いますが、その時はスーパーバイザーである3年生の先輩からのアドバイスを参考にしながら進めていきましょう。この日の委員長や役員の挨拶の中に、「協力」というキーワードが出ていました。松江六中をより良いものにするためには、松江六中の生徒全員の協力が必要です。どうすれば協力してもらえるか、自分たちならどんな協力ができるか、よく考えてください。専門委員や生徒会役員の皆さんは、前期や前の年と同じことをするだけではなく、新しい視点で自分なりの様々な取組のアイデアを出し、十分に検討したうえで実践に移して欲しいと思っています。皆さんの活躍に期待しています。

	会 長	副会長	書 記	庶 務
生徒会本部役員	(2-3)	(2-1) (1-1)	(2-1) (1-2)	(2-1) (1-1)

	委員長	副委員長	書記
1 年学級委員会	(1-2)	(1-3)	(1-1)
2 年学級委員会	(2-1)	(2-3)	(2-2)
3 年学級委員会	(3-3)	(3-3)	(3-1)
生活委員会	(2-3)	(2-1) (1-1)	(3-2) (1-1)
整美委員会	(2-1)	(2-3) (1-3)	(1-1)
保健委員会	(2-1)	(2-2) (1-1)	(3-1) (2-3)
給食委員会	(2-2)	(2-3) (1-2)	(2-2) (1-1)
図書委員会	(2-2)	(2-1) (2-3)	(2-2) (1-1)
放送委員会	(2-3)	(2-3) (1-2)	(3-1) (3-3)



(敬称略)

教育実習が終わりました 9/26(金)～10/10(金)

2週間という短い期間でしたが、松江六中に教育実習に来ていた沓間先生が、メッセージを寄せてくださいました。中学生の時から教員を目指していたとのことですが、松江六中に実習に来て、改めてその思いを強くしたと語っていました。将来、同じ仲間として仕事ができることを祈っています。



沓間 竜大先生(英語 1年1組)

10日間お世話になりました。この実習を通して、小野満校長先生、堀米副校長先生、若狭先生、土屋先生をはじめとする松江第六中学校の教職員の皆様、そして1年1組をはじめとする生徒の皆様から様々な学びを得ることができました。その学びは教科指導や生徒指導等多岐にわたります。

私は中学生の時に教師を志しました。そしてこの教育実習を通してさらに成長し、夢への一步を踏み出せた気がします。これから私は大学へ戻り、さらに良い教師を目指すべく、勉学に励みたいと思います。

松江第六中学校の校訓である「開拓」という言葉を忘れることなく、志をもち、自ら育つ教師になります。

短い間ではございましたが、本当にありがとうございました。



フッ化物洗口でむし歯予防！ 9／24（水）～



9月24日より、週1回のフッ化物洗口が始まりました。

朝学活の時間を利用して、各クラス、保健委員、先生の指示のもと60秒間のブクブクうがいを行っています。初めての「フッ化物」の味に抵抗がある生徒もみられましたが、2回目以降はスムーズに実施することができています。登校前の歯みがきを忘れないよう、保護者のみなさまも声かけをお願いします。

*フッ化物洗口とは

フッ化ナトリウム溶液でブクブクうがいをするむし歯予防の方法です。永久歯のむし歯発生率を、洗口をしなかった人と比較すると、20歳で50～58%の予防効果が報告されています。

*フッ化物洗口の効果

- | | |
|-----------|---------------------------|
| 1 歯質強化 | 歯のエナメル質を強化し、酸に対する体制を高める |
| 2 抗菌作用 | むし歯菌の働きを弱め、酸の発生を抑える |
| 3 再石灰化の促進 | カルシウムやリン酸を取り込み、初期むし歯を修復する |



（文責：主任養護教諭 高須 弓美）

中央・一之江ふるさとまつり 10／26（日）

この日は荒天が予想され、小学生のパレードも、中学生のボランティアも前日のうちに中止が決定しました。当日はそれほど強い雨は降らなかったものの、松江五中のグラウンドがぬかるんで歩きにくかったことと、気温の低さで残念ながらいつもの賑わいとはなりませんでした。

本校PTA本部役員の皆さんも家庭科室で周到に準備を進め、万全の態勢でドーナツとタピオカドリンクを販売しましたが、寒さには勝てず、ドリンクの方に若干の売れ残りがあったようです。時間をかけての準備、当日の販売、そして最後まで片付けと大変お疲れさまでした。

松江五中の特設ステージで発表を行うはずだった松六吹奏楽部は、場所を松六体育館に移し、13時から演奏会を実施しました。大勢の観客に見守られて、4人の3年生がこの会を最後に引退していきました。



チャレンジ・ザ・ドリームに向けて準備を進めています（2年生）

2年生は、11月25日（火）から始まる職場体験（チャレンジ・ザ・ドリーム）に向けての取組が本格的になっています。もうすでに生徒から希望を取り、調整をして、誰がどの事業所に行くのかは決まっています。必ずしも上位に希望したところには行けるわけではありませんが、どの職場で体験したとしても、そこで働く方々の姿や、指導いただいたことから大きな学びがあるはずです。せっかくお世話になるのですから、興味をもって臨み、色々なことを吸収し、今後の自分の進路選択の参考にもして欲しいと思います。

10月30日（木）には、社会保険労務士の山本昌之様にお越しいただき、「働く」ということについてお話しいただきました。2年生はインフルエンザが流行っていたため、各教室でオンラインで行われました。山本様はご自身が松江六中ご出身ですので、その頃の学校の様子や思い出を語って生徒たちの心をほぐしつつ、人が働く意味や働き方の多様性などについてわかりやすくご講演いただきました。働いて得られる「給料」からは、税金や保険料が引かれてしまい、実際に自分が自由に使えるお金は減ってしまうことや、それが他の人のために使われていることなどを聞き、生徒たちが大きく納得する様子が見られました。働く上で大切なことは「主体性」で、自分でやるべきことを見付け、積極的に動く力が求められています。チャレ・ドリでは、指示されたことをやるだけではなく、常に「次は何をしましょうか？」と自ら動こうとする気持ちを大事にすることのご指導をいただきました。

期末考査最終日の11月14日（金）に事前訪問をするにあたり、10月31日（金）からはそのための連絡を代表生徒が行っています。慣れない言葉遣いや、電話で要件をしっかりと伝えることに悪戦苦闘している様子が見られましたが、これも経験です。体験まで1カ月を切りました。心の準備をしっかりとしておきましょう。



特別支援教室を紹介します！

東京都の特別支援教育の策定に沿って、本校でもエンカレッジルームを設置して生徒の支援に活用しています。その内容のひとつに「特別支援教室」の運営があります。

特別支援教室とは、在籍学級の生活をより充実したものにするために、学習の一部の時間を通室による指導で支援していくことを目的としています。

週に2日程度、巡回指導教員が来校し、週1回1時間の個別指導を原則として自立活動の学習を行っています。特別支援教室の学習では、通室生徒の苦手克服だけでなく、得意なことをさらに伸ばし「わかる・できる・やってみる」という意欲や「集団の中のひとり」という自覚を育むことを大切にしています。また、保護者と担任、担当巡回指導教員が常に連携して支援計画を立て、教職員全体で共有して生徒を応援しています。



エンカレッジルーム

困っていることがあっても、「ここなら大丈夫」「わかってくれる人がいる」と感じられるような安心感のある場所や人でいられるよう、寄り添った支援を心がけています。これからも、生徒一人ひとりの笑顔と成長を見守りながら、温かい学校づくりを進めてまいります。

本校では、学習や生活、人間関係など「どうしたらいいんだろう」と感じる時に個別に相談し、先生と一緒に具体的な方策を考えています。また、進路

のことでは、自己理解を深め、表現力を高める活動を通して、面接の練習もしています。自分のペースで安心して学べ、笑顔溢れる場所になっています。社会で自立できる力の育成に努めています。

(巡回指導教員 神澤 悠太／特別支援教室専門員 眞利子晃子)

11月の行事予定

日	曜	行事予定	給食	日	曜	行事予定	給食
11/4	火	全校朝礼 専門委・中央委	○	20	木	デフリンピック観戦(1)	23
5	水	Jアラート 期末考査一週間前	○	21	金	チャレンジ・ザ・ドリーム前日指導(2)	○
6	木	音楽鑑賞教室(2)	○	22	土		
7	金	漢字検定②	○	23	日	ESAT-J YEAR3 勤労感謝の日	
8	土			24	月	振替休日	
9	日			25	火	チャレンジ・ザ・ドリーム(2)始	13
10	月	生徒会朝礼 安全指導	○	26	水		13
11	火		○	27	木		13
12	水	期末考査始	×	28	金		13
13	木	期末考査	○	29	土		
14	金	期末考査終	○	30	日		
15	土			12/1	月	チャレンジ・ザ・ドリーム(2)終	13
16	日			2	火	三者面談(全)始	○
17	月	全校朝礼 実力テスト(3)	○	3	水	歯科指導(1)	○
18	火		○	4	木	区学力調査(1・2)	○
19	水		○	5	金		○

**松江六中第50回文化祭 10月25日(土)に無事終了しました。
ご理解・ご協力をありがとうございました。**

※文化祭の様子は、アンケート結果と共に次号(第8号 12月1日発行予定)に掲載します。

環境をよくする絵画コンクール入賞作品が展示されます

期間：令和7年11月14日(金)～11月20日(木)

時間：9:00～21:30

会場：松江区民プラザ1階ロビー(区長賞)

3階展示スペース(協議会長賞)

**松江六中の生徒13名の作品が展示されています。
ぜひご覧ください。**

